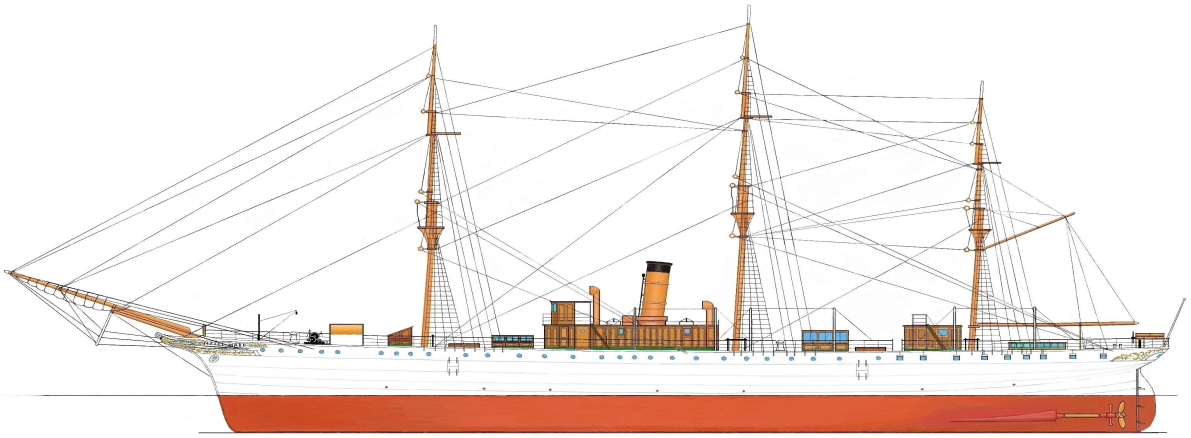
Ocean

海洋塾機関誌第3号



平成28年3月1日

特定非営利活動法人 日本海洋塾
日本海洋塾は、世界を結ぶ海と船を、広く皆様に伝える活動により、海洋立国意識の拡充を目指しています。

§平成27年度前期事業報告 （平成27年11月01日～平成28年02月29日）§

理事長 松﨑光男

平成27年11月01日、商船学校創立140周年を記念した行事が行われ、同時に「明治丸」の船内一般公開も始まりました。「明治丸シンポジューム」も同時開催され、この日を待ちわびた人々が大勢見学に訪れ、盛況でした。

然し乍ら、修復工事は完工したとは云え、塗装の剥がれや甲板上の構造物の水漏れ等々、至急手直しを必要とする部分が多く、既に、一般公開の際にも見学者から色々ご指摘を受ける状況となっておりますことは、会員の皆様の広くご承知のことと思います。

これらの問題箇所につきましては、大学と施工業者との間で「補償工事」として修復に関する交渉が継続中と仄聞しておりますが、3月～4月に手直し工事を行うこととなりそうだとの情報以外、成行き詳細は分からない状況です。

このような活動環境の下、本年度後半は、会員の皆様のご協力を得て以下のような活動成果を上げております 。[(　　)内は事業区分]

1. 都度、ホームページの更新、拡充を行っております。 また、皆様のご協力を得て、機関誌「Ocean」2号を発行（平成28年1月）しました。（海事思想啓発事業）
2. 「江東区観光協会」（江東区が設立）との連携で、「深川さくらまつり」（これは、門前仲町の商店街が中心になって設立した「深川観光協会」が実施する）の期間中に江東区観光協会が実施する「まちあるきツアー」（明治丸見学と桜めぐり）に協力することとなり、ツアーに関する大学と「江東区観光協会」の協議を斡旋し、平成28年2月27日には「江東区文化観光ガイド」への「明治丸及び大学内史跡」に関する研修会を当塾が実施することとなりました。（海事意識教育事業）
3. 海洋会・越中島支部の業務を受託し、先ず、支部業務の流れを整理し、准員及び卒業生に関する名簿データの整備を行いました。 また、平成28年2月中には「（越中島）支部だより」約1,800通の発送業務を行いました。（海事意識教育事業）
4. 年末に向けた「明治丸」のライトアップを大学側と協議して実現。 工事業者の手配、及び、照明器具の選択・設置について協力し、平成27年12月21日から25日までの5日間、夕方5時から夜9時までの点灯管理、事後の照明器具撤収、収納作業、等を行いました。（利活用促進事業）

   （この際に、当方からのアドバイスにより、ミュージアム事務所が東京都と交渉して、相生橋方面からの視界を妨げていた、柳などの樹木の枝落し（防潮堤の高さまでの切り詰め）の許可を取付けて実施し、ライトアップ効果が一層発揮されることとなりました）
5. 「明治丸」の保全作業への協力として、本年度は、「中甲板以下の船内・艙内清掃、艙内一部機器の清掃・整備」について大学から作業を請負い、平成27年11月 24 日から作業を開始し、平成28年3月末まで、協定した作業計画に従って実施中です。（整備保全事業）

6. 上記「清掃・整備」作業の一環として、一般会員の参加（延８名）を得て、中甲板以下の「船内大掃除」を、平成２７年１２月２１・２２日の二日間に亘って実施、特にランプシェードの清掃など、普段手の届かない細かい箇所についての清掃・手入れを行いました。（整備保全事業）
7. 作製した、「寮歌の CD」及び「創立１０４周年・明治丸修復工事完成記念の「缶バッジ」の販売は順調に在庫を減らしております。（物品販売事業）

平成２８年３月末には建設中の「明治丸記念資料館（仮称）」が完成することになっており、４月以降の平成２８年度は、修復が完成した「明治丸」、トイレ改修、エレベータの新設などの改装工事が終わった「百周年記念資料館」、及び、新設の「明治丸記念資料館（仮称）」、等の諸設備が整備され、それら施設の利用・活用がより一層求められる環境が整います。 両資料館内の展示物、展示方法、等々、利用・活用に関する各種提言を積極的に行い、協力関係を一層強化し、当塾の事業を拡充していく必要があります。

「明治丸」の補償工事の成行き如何ではありますが、平成２８年度は、平成２７年度のような単なる「中甲板以下の船内・艙内清掃、艙内一部機器の清掃・整備」の請負いではなく、「明治丸」全般の保全、維持・管理、利用・活用、についての協力度合いを一層深めるべく、大学側と鋭意交渉する所存です。

また、各種補助金申請の検討、海普会との更なる共催の検討、「江東区観光協会」等の外部団体との協力関係の構築、海事意識の普及に関する独自プログラムの検討、等々、種々の企画を立案し、実施する年と致したく存じます。

その為には、第 1 部会～第 5 部会体制の更なる活性化に向けて、会員皆様のご提案、ご協力を切に希望しています

明治丸　ライトアップ開始（2015.12.21）

桜と修復完了した明治丸(2015 年４月)

§環境社会問題について§

正会員　北沢昌永

環境問題が一般社会、産業界のみならず庶民の日々の生活に大きな影響を及ぼしている。 マスメデイアは盛んに、絶え間なくこの問題を報道している。国、公共団体なども頻繁に環境問題について皮相的見解やそれにもとずく対応方針を打ち出している。 確かにこの問題は現在の人間生活にとって、また子孫の将来の生活環境にとって重大な関わりを持っている。 だが、環境問題を声高に叫ぶ者たちが真に問題の正しい知識、理解があるのか？疑問である。その道の専門家に比べて一般庶民はさらに知識が乏しいといってよかろう。因みに最近の例を見てみよう。「休日における乗用車の高速道路通行料金の減額特別措置を喜び、安直な車外出が渋滞に伴う莫大な発生ガスがどの位環境破壊を起こしていること」を気ずいているだろうか？　また、省エネ家電購入の際のエコポイント政策、環境対応乗用車買い替えの場合の補助金、取得税の減額などは一定の効果はあるだろうが、環境よりも景気対策のようである。さらに、省エネ家電といってもエヤコン、冷蔵庫，地デジテレビに限られ、それに、まだ使える物を代替え廃棄することに無駄が有り、廃棄物が環境に及ぼす影響は大きい。
処理の3R 原則が正しく行われていない現実が有る。
地球温暖化ガス排出削減について、日本政府の削減目標は国際世論では評価が低い。

私自身環境問題に関心を持ち、僅かながら調査研究を試みたとき、如何に己が無知であったかを知って愕然したのであった。そして、環境社会には大変広範な問題を含み、奥深い領域が有ることを知ったのである。
ECO 検定にトライした時、試験会場に集まった若者たちの真剣さに圧倒された。気軽な自己啓発の姿勢を反省させられた。

そこで、次に、抽象的意見を排し、具体的事項を環境用語から取り出してみよう。

知識の涵養,蓄積のために環境社会問題で使われている用語

1. ESD(Education for sustainable development)
2. 典型7公害
3. 四大公害病
4. 九大地球環境問題
5. 大気汚染原因物質
6. 光化学スモッグ
7. 温室効果ガス
8. 地球温暖化と影響
9. オゾン層の破壊
10. 酸性雨
11. 森林破壊
12. 砂漠化
13. 生物多様性の危機
14. 再生可能エネルギー
15. 京都メカニズム
16廃棄物リサイクル（3R の原則）
17. トップランナー方式
18. 新エネルギー
19. バイマイオスエネルギー
20. 車社会の環境対策
21CRS(corporate social responsibility)

22. トリプルボトムライン
23フィランソロビーメセナ活動
24. 環境効果
25. グリーンインヴエスター
26. 環境アセスメント
27. 日本の温暖化対策
28. LCA （ライフサイクルアセスメント）
29. スローフード運動
30. コンポスト
31・グリーンツーリズム
32. ゼロエネルギー住宅
33. 地球上で利用可能な水
34. 環境対策に日本が果たすべき役割（産業公害防止技術,省エネ技術、CO2 削減の為のリダーシップ 、3R イニシアテイブの推進）
35. 食品のトレーサビリテイ
36. エコライフの例
37. 自動車リサイクル法

以上、各項目についての詳細説明は省略します。

我々は環境問題にどのように対応すべきか

当然の結論が有るのだが、我々が生活してゆく上で、故意に又は、無意識のうちに環境を害する考え方、行動が有ることはしばしばだ。だから、自らの行動指針を定め,出来うる限りこれを実行してゆくべきである。
終わりに、エコ人間の行動指針を付記します。

指針：
1. 環境に関心を持つ
2. 健康に気を配り、毎日の生活を丁寧に暮らす。
3. 多様な〔いのち〕を慈しむ。
4. 自然の豊かさを楽しみ、自然から学ぶ
5. 地域コミュニテイ—創りあげてゆく。
6. それぞれの人や組織を認め、連携し,協働する
7. 限りある資源を大切にする。

以上、拙い意見を述べたが、あの男がこんな事を言っていたな、と、何かの機会に思い出して、ごく僅かでも環境保全に役立たせてもらえれば幸いに思う。
なお、海洋塾の活動の一端として、大洋、海、船の環境問題に取り組むための考え方の参考になれば,と期待する次第である。
環境社会エコ人間

公害防止主任管理技術士

§明治丸のお皿§

正会員　佐藤勝二郎

明治丸で使われていた什器のうち、煙草盆、クロッシエ、お皿、ナイフ、フォークが東京海洋大学越中島キャンパスの百周年記念資料館に保存されている(H28.1 現在)。

お皿は写真 1 と写真 2 の二種類あり、明治丸の観覧記念のお土産品として、写真 2 のお皿のレプリカが、海洋会ボランティアクラブ明治丸グループから販売されている。

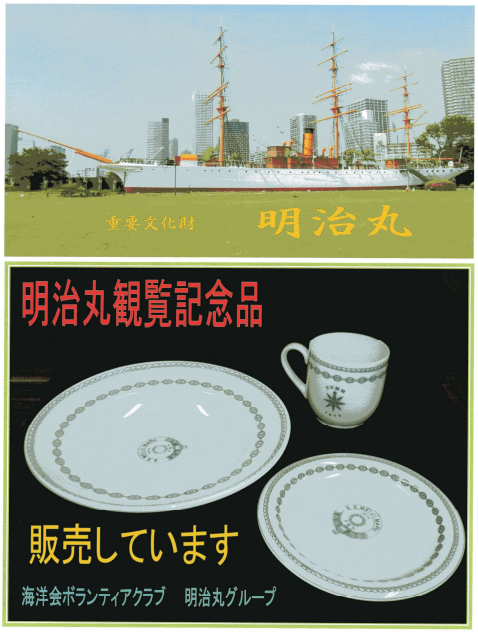
販売品に添付されている説明書を読むと、明治丸の退役、関東大震災、敗戦による混乱などの災難を掻い潜り、生き延びた経緯が知ることが出来、また中央のロゴマークの意味が分かるので、全文を掲載する。

このお皿で食事しながら、明治丸の活躍を偲んでいただければ明治丸のボランティアガイドとしては望外の喜びである。

お皿の写真 1

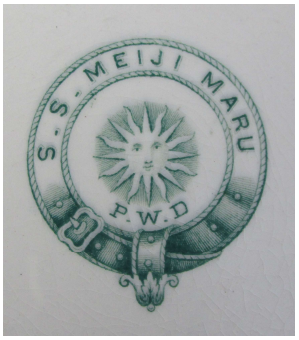
お皿の写真 2

お土産品のポスター



大皿￥2,100-、小皿￥700-、マグカップ￥700

お皿のロゴマーク



東京海洋大学越中島キャンパスに保存されている重要文化財明治丸の中甲板の陳列ケースに、一枚のお皿が飾られています。これは明治丸が建造された明治７年(1874)日本へ回航するに際し英国で調達された什器の一つで、ロープとチェーンの模様を外側にあしらい、中央の模様の中に S.S.MEIJI MARU 及び P.W.D. の文字が配されております。P.W.D. は工部省の英名 Public Works Department の略で、当時の工部卿 伊藤博文の特注で製作されたものである事が伺えます。

このお皿は明治丸が本学に譲渡されるまで、士官室で使用されていたもので、明治天皇もお使いになったものであります。明治丸が本学に譲渡されてからは、羅州丸(明治丸の次の燈台視察船)で使用されていましたが、昭和５年同船の引退に伴いそのうちの数枚が明治丸に譲られました。その後の東京大空襲などの災難に耐えて、明治丸職員によって守り抜かれ、更に昭和２０年終戦後、米軍第七騎兵師団が校舎と共に明治丸を接収した時、当時の明治丸職員の機転により辛うじて搬出され残されたものであります。

このたびこのお皿を大型と小型にして複製いたしました。焼き方は、イングレースと云い、白生地を 1300 度～1500 度で一旦焼いたものに、釉薬を塗って 1250 度～1300 度で再び焼いて仕上げたものであります。色もなるべく現物に近くして、清楚さを保ちながら当時の面影を残すように心掛けたものであります。

§来観者の眼－明治丸びっくりポンのお話§

副理事長　都築雅彦

平成10年の閉館後17年を経て、昨年ようやく修復を終え、一般開放となった明治丸には今後も待ち兼ねた多くの来観者が予測されるところであるが、物見遊山の人々に交じって、帆船ファンで予習十分な人も来られることが予想される。
この人たちは、興味、関心の対象や眼のつけどころが分からず、こちらの準備不足のまま質問が飛んできて「え～と？」となることがしばしば。　中にはガイドいじめが快感という人もゼロではない。　そこで、昨年からの公開中に小生が出くわした「びっくりポン」な話題を読者に披露し、当事者になられたときの参考にしていただければ幸甚です。

１、かつて中型帆船に乗っていたと言う人のお話し

上甲板最前部の両舷にある厠室の前側の扉を見て「これは無いよ！」のお言葉。　「どこがですか？」と聞いたところ「扉の開ける方向が逆でしょう」(両舷とも後ろ側に開くようになっている)。　いつも見ていて、これでいいことになっていると思っている当方は「繋留練習船になって走らないので、使いやすいように逆にしたのでしょう」と、とっさの言い逃れ。
指摘された通り、かつて自分が乗っていた船で甲板室の扉は後ろ側に開ける式のはなかったし、明治丸も他の扉は全て前方に開くようになっており、ここだけ逆な理由がよく分からない。

来観者は、走る船を前提に見ているが、明治丸は船ではない歴史がはるかに長く、その間に船の形式が薄れており、文化財ということで、間違いが「変更禁止」になり、いつのまにか正しいものになってしまっているのは情けないはなし。

２、マスト･ヤード･索具をじろじろ見ていた帆船マニアのお話し

「なにかお判りにならないところがございますか？」と声をかけたところ、「ロアトップヤードは回さないのですか？」との返事。「分かりますか？」と聞いたところ、「ヤードを支えている金具（クレインのこと）とフォアステイが当たっていますよね・・・」「帆船の模型を作っているので参考になるかと思って見にきました」とのことで、「模型のヤードも回るようにしたいと考えているので・・・」とのこと。・・・(明治丸は模型以下か？)
「練習船時代は回していたはずですが･･･」いつから回らなくしたか昔の写真を調べたところ、昭和の大修復で三菱重工がステイの取り付け位置を違えたようで、その後は「これが本来の姿」になってしまった。これでは来観者は「がっかりポン」ではないだろうか。

３、愛知県の明治村から見学に来られた学芸員のお話し

「明治村に玉杢模様の装飾がある文化財が来るので、明治丸の文様を見に来た」とのこと。
（昭和の大修復の際、一等区画の壁板の装飾に玉杢文様を、機関室と缶室の壁板に柾目文様を施した）

案内しようと後部船橋室の扉を開けたところ、扉の内側をジーと見て、「渦巻きになっていますね」と、当方「エッ・・・(内心「何だそれ？」)。　（指摘されて点検していくと玉杢と渦玉杢？が混じっており、「何だこりゃ・・」との実感・・・重要文化財の修復はこのレベルか？・・・

この方は、さすが明治文化財のプロだけあって中甲板を見終わったところで「何かちぐはぐですね」との評価。「どこがですか？」に「何時の時代のものになっているのですか？」、「コンセプトがはっきりしていないところが問題ですね」とのお言葉。

確かに、船体は、明治初期の鉄製船体に明治後期の練習船の帆装備、船内は一等客室と学生の技業用広場が交じり、索具の艤装は昭和時代で、装飾に修復者のいたずら？がある

のは、いかがなものか？と。当方がっくりポンとなった次第。
この装飾には後日談があり、年末の大掃除を兼ね、ボランティアを募って壁板に付いた埃を拭き取っていた時のこと。　「波になった柾目文様があります」との報告があり、確認したところ、直線的のはずが、正弦波のように描かれた文様の１枚を発見！　照明の少ない暗い場所で、気付かず、またもビックリポンの次第。　どこにあるかは内緒にします。
修復工事の内容がこのレベルで、いたずらが在り得るとはこれもビックリポンでしょう。

§菅船長の事跡（ネット上の情報より）§　　正会員　澤間譲治

◎菅船長につては既に情報が完備されていると思われますが、インターネット上に履歴や割腹自害後のNHKで放送された原稿がありましたのでそのまま転載させて戴きます。

◎13、14ページに菅船長の当時の肖像写真、遺書、長崎丸の雄姿と航跡を掲載します。

明治 16 年～昭和 17 年（1883～1942）明治 16 年2月 24 日越智郡歌仙村大字池原（現菊間町）で生まれる。大正から昭和にかけで日本郵船，三菱合　資会社，近海郵船，東亜海運等の船長として活躍，昭和17年乗船長崎丸が長崎沖にて機雷に触れて沈没し犠牲者 39 名を出した責任をとり自決。当時の国情も　あって，海員道の鑑とたたえられた。

明治 34 年西条中学校（現西条高校）を第1期生として卒業,翌 35 年 10 月東京商船学校（現東京商船大学）航海科に入学。41 年卒業と同時に日本郵船会社　に入社，運転士（航海士）として欧州航路，米国航路の優秀船熱田丸，阿波丸などに乗船した。大正５年甲種船長免状を授与される。同6年三菱合資会社に移籍，主として近海航路に乗船，同 13 年近海郵船会社に移り天津航路，台湾航路に従事。昭和 14 年経験を買われて東亜海運株式会社に入社，天津・上海航路に　就航。

16 年 12 月８日太平洋戦争勃発の日，上海沖において米国商船プレジデント・ハリソン号の監視を海軍から指令され，自船が無武装なるにもかかわらず勇敢に　この任務を果たし，同船の拿捕に貢献したとして世人の賞讃を受けた。しかし好事魔多し，翌 17 年５月 12 日上海を出航した源三郎指揮下の長崎丸 5,268　総tは,長崎港外にさしかかった翌日午後2時過ぎ機雷に触接し，あっという間に沈没してしまった。最後迄、船橋にて指揮を取り一旦は、水没するも助け出されてしまう。一転、英雄から卑怯者扱いに。船舶の喪失と多数の犠牲者を出したことに責任を感じた源三郎は，遺族への謝罪と遭難事後処理完了を待って、５月　20 日船会社屋上にて古武士の作法に則り割腹自決。享年 60 歳。

日本海員の死生観に大きな一石を投じた事件であった。

現在、厳島神社(石像)、西条高校(胸像)、東京商船大学(石像)が立っている。

■NHKの放送内容　菅船長を偲びてー海務院船員部長若林清作

今月の今日は昨年の五月十三日長崎の港外に於て、不幸にも味方の機雷に触れ沈没いたした長崎丸船長故菅源三郎氏の一年忌に当るので、同船長の申分なき人柄と大いなる勲を偲びつつ私が平素考へてゐるところの一端を船員諸君に話したいと思ふのであります。

故菅源三郎氏は諸君も已に知る如く長崎丸沈没の全責任を一身に負ひ、長崎丸沈没についての一切の後片付けを了うした上烈々の遺書を残し、長崎丸が沈没して から一週間目の今月の今日午前八時、東亜海運株式会社長崎支店の楼上に於きまして、従容自若天地自然に帰するやうな落着いた境地で、古武士切腹の型に做つ て自刃をし、六十歳を一後として若葉薫る長崎港頭に露と消えたのでありますが、併し当時の同船長の行為と遺書により認められますところの至誠一貫責任観念 の強く烈しきこと、覚悟せる死に直面しながらも平常と何等異るとこらなかりしこと、公私の分別極めて明かでありまして報恩感謝の念の満ち満ちてゐること、 妻子に対する心やりの細かく美しきこと等或ひは鬼神を泣かしめ、懦夫を立たしめ、世人をして感動措く能はざらしめましたことはなほ、吾人の記憶に新たなる ところでありまして、或ひは大楠公を或ひは乃木将軍を或ひは佐久間艇長を或ひは先般平出大佐の放送にありました山口多聞中将を偲ぶが如き心地がするのであ ります。この人間菅源三郎としてまた船員菅源三郎としての崇高なる偉大さは何処から生れたのでありませうか、私は決して一朝一夕のものではないと信ずるの であります。

人間に不断の修養平素の心掛がなければどんなに機会が与へられましても、仮に「己れの生命を絶つこと」は出来ましても、至誠が天に通じ天地と共に永遠に生きることは出来ないのであります。

私は菅船長の遺書を読みました時涙が止めどもなく流れますのを如何ともすることが出来ませんでしたし、また昨年海の記念日に同遺書が銀座松坂屋に陳列せら れましたが、同遺書に足を運ぶ市人引きも切らず、しかも何れも遺書に引きつけらるるが如く目頭を熱くしない人は一人として見受けられなかつたのであります。

読む人見る人各〻によりましてその感動も異なることではありますが、私は菅源三郎氏をしてかかる至誠の人とならしめました第一の要件として同夫人、令息、令嬢宛の遺書の中に

「御前達に対しては如何にも不憫に堪へず真に断腸の思ひがするけれ共…中略…父は潔く日本海員道の為に一身を捨てる云々」

更に自刃の前の日夫人宛書き送り ました手紙に「お前たちの為には生きて居てやりたいのは山々なれどそれでは我が日本帝国の海員道が相立たぬ」とあります。この海員道、当に身を以て海員道 を守り海員道に殉ぜんとしてをられた心組みをあげねばならぬのであります。

管船長は海上生活三十有余年寒暑風雪艱難辛苦と闘ひながら、只至誠の二字を以て船員としての本分即ち船員はかくあらねばならぬもの、船員はかくせなければ ならぬものとその信ずる道に精進せられたのでありまして、徒つて菅船長の一挙手も一投足もその行ひの凡ては公のことたると私のことたるとを問ひませず、死 を以て殉ぜんとい

たしました菅船長のいはゆる海員道の表れでないものはないのであります。然らば菅船長をしてかくもけだかく、かくも偉大ならしめた海員道 とは果して如何なるものでありませうか。
菅船長は人となり地味実直幼少の頃より言葉少なくまた世にもてはやきることを好まざる人でありました。この菅船長の性格なり考へなりは次の一事を見ましてもよくうながはれるのであります。
昨年某雑誌記者が菅船長の伝記を編纂しようとしてその資料を得る為に神戸にあります菅家を訪問いたしたるところ何れも失敗いたしてをります。菅船長夫人は
「主人は伝記を世に残すやうな立沢な人ではありませんでした。ことにこの度のことは、全く主人の過失のいたすところで、御国の為には大切な船を沈め更に多 数の人命まで失つてをります。その方々の英霊に申しわけがないばかりでなくその遺族の方々を思ふと身も世もありません……中略……私達も主人の心を心とし て世を忍び生きてをるのであります。況して主人の伝記を出すといふやうなことは、故人の生前の考へから申しましても相反することであります。」
ときつばり断り同記者の熱心なる説得もなんともいたし方なかつたのでありますが、この夫人の言葉を以て見ましても、背船長の人となりの奥床しさが極めてはつきりと画き出されるのであります。
このやうな次第で菅船長三十右余年の海上生活はその性格の通り地味にして実直、当り前のことを真剣に身を以て実行し通さんとする努力の連続であつたやう で、取り上げるやうな特色もこれといふ逸話の如きもありませぬ。徒つて菅船長の考へられし海員道なるものは、長崎丸の遭難から自刃せらるるまでの約一週間 の間の同船長のとられし態度とその遺書とに最もよく表れてゐるものと思ふのであります。
長崎丸遭難後の菅船長は覚悟の死に直面してをりながらも一点の乱れも見られず、平常心も失はず、長崎丸沈没に関する後始末を実に立派に処理いたしまするとと 共に、高木海軍武官、文亜海運清水社長、同じく小方海務課長また長崎支店長、鍋島長崎丸一等運転士、やすゑ夫人、令息、今嬢に対し墨のあともいと鮮かに遺 書六通をしたためてゐるのであります。
この覚悟の死に直面しながらも寸分も平常心を失はず、徒容として生死を超越しをりしこと道にその何れの遺書にも見らるる責任感の強烈なことは全く常の人の 及ぶところではなく、菅氏三十余年の黙々たる修養の結晶であると確心【ママ】するのであります。
更に清水社長に対し「小職の軽挙により重大結果を惹起し、 御国に対し会社に対しまた痛しくも惨禍に遭はれし船客及び部下職員に対し御詫びの申し上げやう御座なく候本件の概要は報告書の通りに有之小職のなすべき諸 手続もほぼ片付き…云々」と事件を起せし不注意を詫びまたまた沈没に関する諸手続の終了をも報告し長崎支店長に対しては
「船と運命を共にする能はず船体沈下と共に海中に入りながら浮び上るに任せ生き延びたるは不覚に候へども数日間の謡命を借りて事後の処理に営るを得たるは必ずしも恥ずべきことにあらぎるかと自ら慰め居り候今回は県知事閣下始め中略…言語に絶する御迷惑を相掛け何とも御詫びの申し上げやうも御座なく候…中略…また本日は店内

を汚し申訳御座無く候…中略…追而　小生妻子三名昨夜特急にて神戸出発すべき旨入電有之多分本日当地着のことゝ存じ候何分よろしく御引廻し願上候」と坦々として何にもこだわることなく自分の　所信を抗べ迷惑をかけたる人々に感謝し支店内を汚すべきことを詫び更に菅氏の身を案じて急ぎ長崎に馳せつけんとする妻子のことまで細々と依頼し

鍋島一等運転士に対しては

「…前略…小生刀も短剣も失ひ剃刀にて決行甚だ不体裁なれども何事も代用品の時節致方なく候…中略…小生例の引伸写真昨日入手亀屋の部屋に有之候貯金通帳　再度交附手続は別封御面倒乍ら御持参可然御願申上候」とありこの場に直面しつつなほこの余裕ある態度にいたりましては、加何に菅源三郎氏が偉大であつた　か、また当時菅氏の心境如何に澄み切つてゐたかを知ることが出来るのであります。

最後にやすゑ夫人及び令息令嬢に対しては先程述ぺました「日本帝国の海員道が相立たぬ」と申し送りし外に

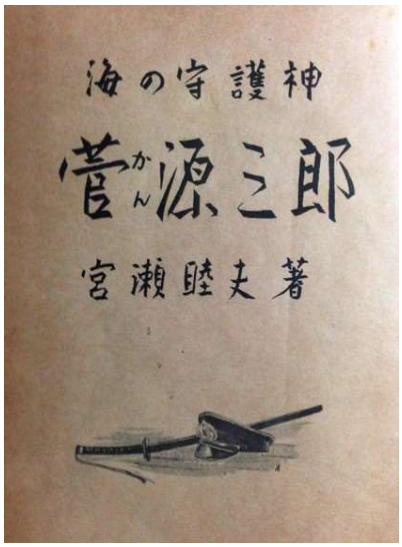
「殊に祐吉（菅氏の一人息子であります）は学業半ばなれど一層気の毒に堪へぬ、さりながら何とかして卒業して呉れ、そして母や姉妹の将来を父に代りて扶け　て呉れ四人共一時は悲歎にくれるだらろうが【ママ】かと気をとり直し互に相慰め相励まして奮闘努力し我が家の再興を計つて呉れ……中路……この事件については当地に於て高橋支店長外各位竝に軍部や　県当局の諸官に対し多大の迷惑をかけたるにも拘らず深く御同情に預り感謝に堪へぬ」と遺書してあります。

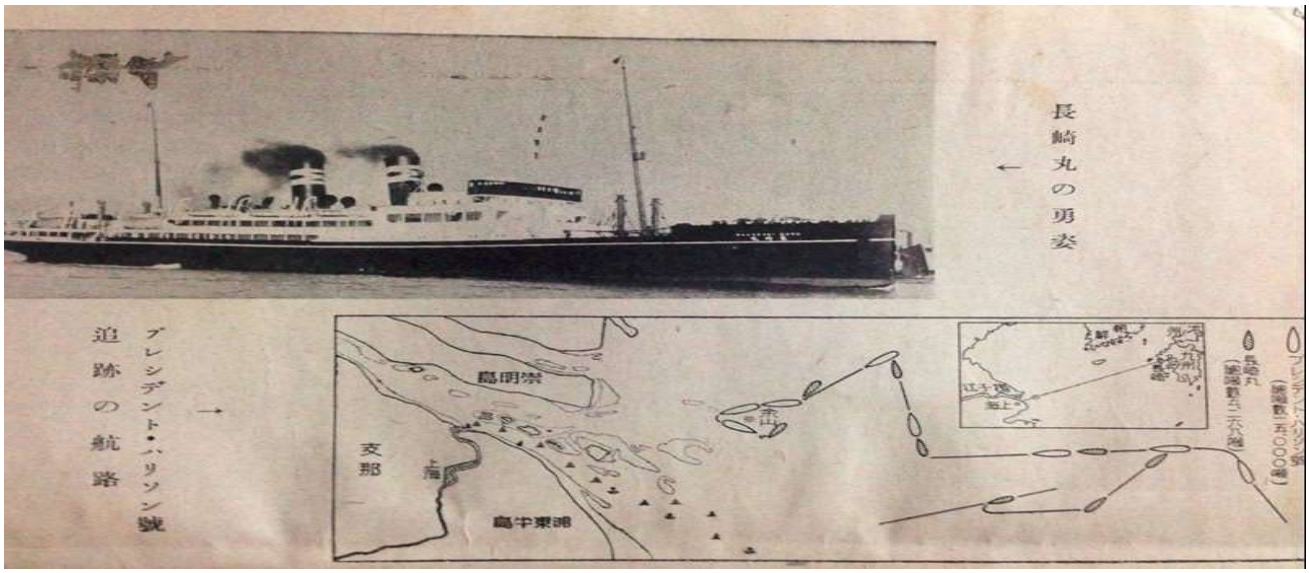
正に櫻井の駅に於きまする楠公父子の決別を思はしめ、更に家人にまで関係者に感謝すべきを述ぺたるにいたりましては、菅氏の底相れぬ人柄の床しさに自ら頭が下るのであります。

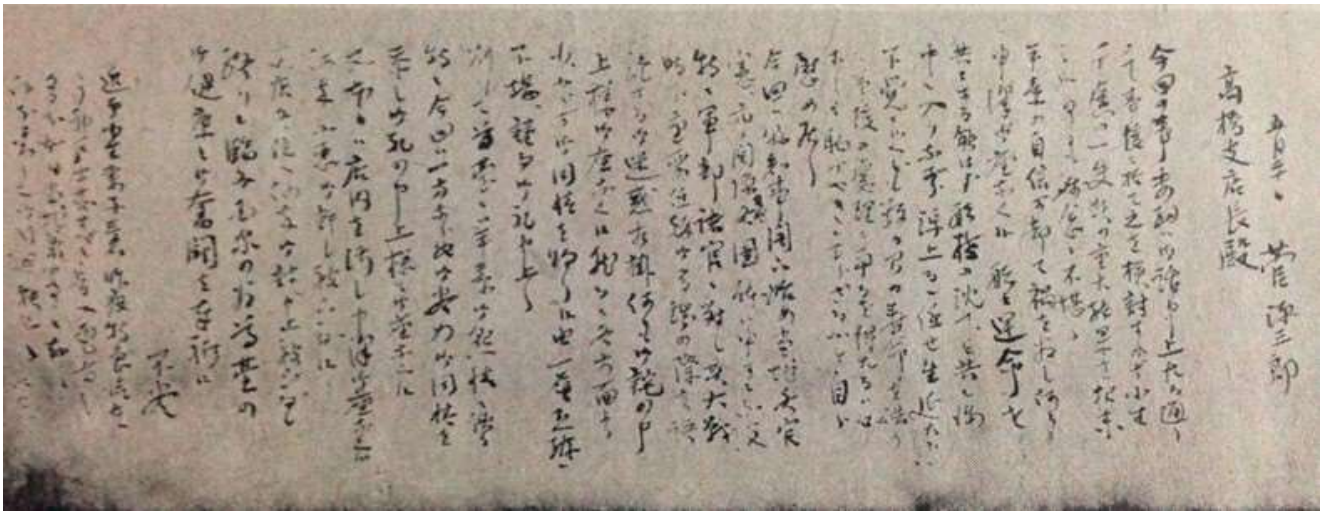
かく考へてまゐりますと菅源三郎氏が黙々とてその本分に精進しつつその心の底に深く刻み込んでゐた海員道とは如何なるものでありましたかは自ら掴み得るの　でありまして、極めて悠久にして高遠なる理想ではありませぬ船員はかくあるべきもの、船員はかくすべきもの、船員はかくすべからざるもの更にその根本であ　ります。日本臣民としての道と死力を竭して実行いたしますことが、菅氏の海員道に対する観念であつたやうであります。この海員道の実践の連続と海上生活と　いふ特殊の環境が菅氏をしてかくも偉大ならしめたものと信ずる外考へやうはないのでありまず。この平凡の実践は極めて困難なことであり非凡なものでありま　す。われわれの心掛くべきことは高いところにあるのではなく自分の足下にあるのであります。

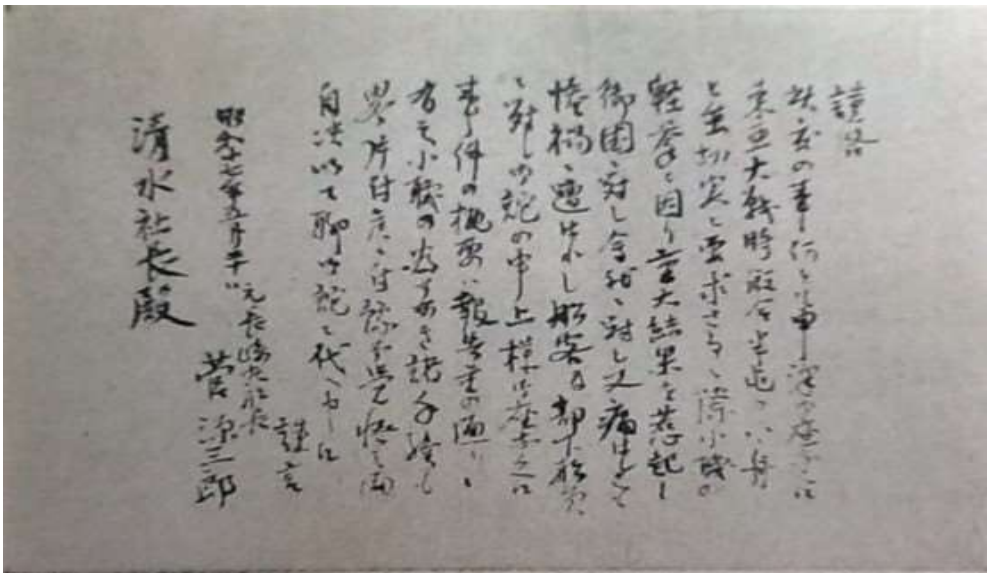
時局愈々決戦対勢となり、船員諸君の活動に俟つところ益々大なりつつあります。船員諸君もまたこの重大なる役割を一深く認識し連日連夜奮闘努力、海運報国　に挺身しつつありと確信し実に感激に堪へぬ次第ではありますが、故菅源三郎氏の一周年に相ひ当りますので同氏の偉烈を偲びつつ海員としての本分の遂行平凡　の実行が如何に人をして偉大ならしめ得かを恩ひ愈々船員としての服務に精進せんことを希ふ次第であります。（五月二十日放途）

社団法人日本放送協会／国策放送／昭和１８年７月１日号


海の守護神
菅源三郎
宮瀬睦夫著


長崎丸の勇姿
プレシデント・ハリソン號
追跡の航路
崇明島
支那
上海
湖東半島


高橋支店長殿

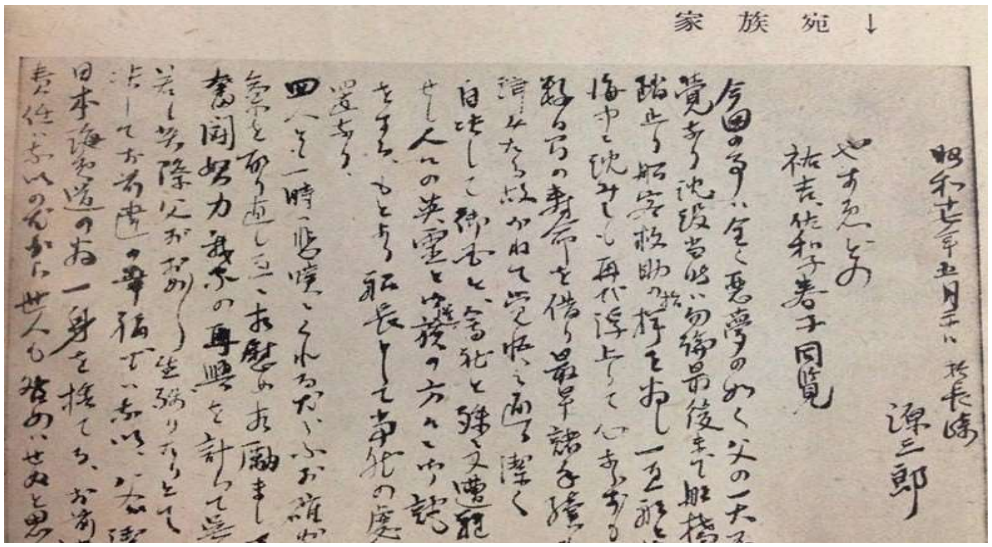


謹啓

清水社長殿

謹言

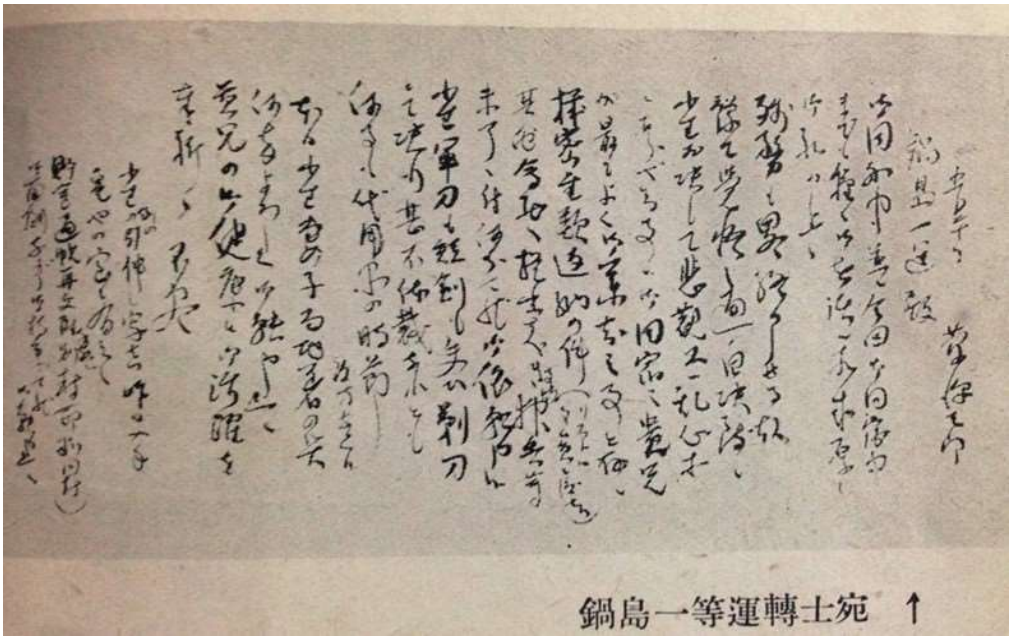
昭和七年五月十二日　元長崎市長　菅源三郎



↓ 宛　族　家

昭和七年五月十二日　長崎

源三郎



↑ 宛士轉運等一島鍋

特定非営利活動法人　日本海洋塾
＜NPO　Meijimaru　Memorial　Academy＞
事務所：〒135－8533東京都江東区越中島2－1－6
東京海洋大学越中島会館2F
TEL：03-6458-5272
FAX：03-6458-5272
E-Mail：kaiyojuku5122@train.ocn.ne.jp